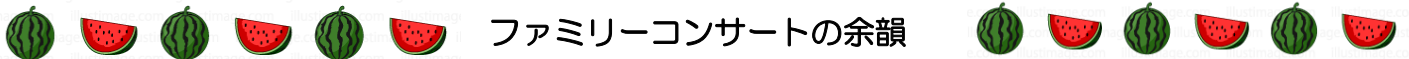


おひさまだよい

2025.7 月号

先日、公立小学校の先生が年長さんの様子をご覧になりました。お子様方の遊ぶ様子や、歌も聴いていただきました。リズムよく体を動かしながら歌う様子を「本当に楽しそうですね」と一緒に歌ってくださいました。お子様方も先生方に自分たちから近寄り親しく話をしていました。「あそびはまなび」の園生活を感じていただけたことと思います。幼保小の連携は緒に就いたばかりかもしれませんが、園と小学校同士の意思の疎通を大切にしたいと考えています。また夏休みには、3月に卒園された1年生を園にご招待し、小学校の様子や後輩である年長さんに伝えたいことなども聞いてみる予定です。



ファミリーコンサートの余韻

ファミリーコンサートが終わり、約2週間経ちました。お子様の心の中には、友だちと奏でた歌や合奏が今も流れています。年少さんのクラスからカスタネットの音が聴こえてきましたので覗いてみると、年長さんが叩いていたリズムを打っています。「???…!!!」私は保育室に入り、早速「ようい!」と声をかけると、お子様方はサーっと横一列に並び、年長さんの真似をしてカスタネットを打ちながら「オレイ!」と掛け声まで真似してくれました。中には鍵盤ハーモニカを構えて吹こうとするお子様もいて、あっという間に文化会館のステージに様変わり!でした。まさに、「学びは真似び」ですね。子ども同士が切磋琢磨し刺激し合う毎日は、本当に貴重なことだと感じます。



一方、お友だちとの気持ちのすれ違いなどで、悲しい気持ちや嫌な気持ちを経験したお子さまもいらっしゃることでしょう。わが子がつらい思いをしていると思うと、親として何とかしなければと思うことでしょう。わが家ではこんなことがありました。年少さんで入園した娘はバス通園でした。そのバスの中で、「お友だちが自分の腕をつねるからいやだ」というのです。私は娘に、「それは嫌だね、どうしようかね、そのお友達に『やめて』とちゃんと言うといいのじゃない?」と提案すると、「いやだ、だってやめてくれないもん」「やめてって言うてみたの?」「言っていない…」というのです。どうしたものかと考えて、私は「先生にも言ってごらん。それから、つねられた時に『いやだ』って言ってごらん。お母さんは、バスに乗ってないから言えないよ」と伝え、加えて園にこの経緯を伝えました。しばらくの間、娘の訴えは続きましたが、そのうちなくなりました。「もうお友だちはつねらないの?」と尋ねると、すぐに手を引っ込めるしぐさをして、「こうするようにしてるよ」と教えてくれました。いいのか悪いのかはわかりませんが、娘は自分でも解決策を探したというわけです。子どもの自立のためにいろいろな方法を考えてまいりましょう。何かありましたらご相談ください。



「えいごあそび」

体で覚えるって大切ですね



皆で積み上げた積み木崩し

真剣そのものです



7月7日の給食は星のハンバーグ

机を四角に並べていただきました



年中さんのお店で

年長さんがお買い物をしました